惜しくも入賞のがす

社会人基礎力育成グランプリ2014全国大会

石巻専大経営・山崎ゼミ

▲ 決めポーズも飛び出した

本学商・前川ゼミ

▲ 緊張を集中にかえて発表

ゼミや研究活動を通じて学生の社会人基礎力がどれだけ成長したかを競う「社会人基礎力育成グランプリ2014全国大会」が3月10日、都内の大学で開催された。関東地区、東北地区代表として出場した商学部前川明彦ゼミと石巻専大経営学部の山崎泰央ゼミは惜しくも入賞を逃した。

全国6地区を勝ち抜いた7校が出場。社会で仕事をする上で必要な「前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力」がプロジェクトを通していかに成長したのか、3人一組で14分間のプレゼンテーションを行った。

前川ゼミは一番手で登場。中山亮ゼミ長、飯田実幸さん、西浦鴻輝さん（いずれも3年次）が昨年の「かわさきトレジャーinたま区」（謎解きしながら多摩区内をめぐる体験型ゲーム）実施までの活動を報告した。質疑応答で「多摩区にどんな人が住んでいるのか、実像に迫る調査は行ったか」という質問にやや苦戦。中山さんは「発表にメリハリが足りなかった。質疑応答の対応力が課題」と反省点を挙げた。

石巻専大の山崎ゼミはキャンパスに近い仮設住宅での被災者支援活動について発表した。ゼミのテーマ「企業家活動」を「支援ニーズを発見し対応する活動」と置き換え、住民アンケートから支援を展開している。大畑普子さん（3年次）、2年次生の粟野洋輔さんと後藤大輝さんが、子どもの遊び場づくりや、お茶会から体操教室へ拡大した取り組みを紹介した。大畑さんらは被災者に寄り添って問題を解決する「エスコートランナーズ」として今後も活動や交流を広げていくと宣言。プレゼンテーションの指導を行い、当日会場に駆けつけた坂田隆学長が「満点の出来」と認める堂々の発表で、会場を沸かせた。

接戦の末、大賞は中京大学総合政策学部に決定。準大賞には創価大学経済学部と京都光華女子短大ライフデザイン学科が選ばれた。講評で健闘をたたえられた石巻専大の粟野さんは「来年また全国大会で発表できるように活動を深めたい」と再挑戦を誓っていた。

3期生23人 KS修了式

大学院経済学研究科の特別教育プログラム「KS（川崎・専修）ソーシャル・ビジネス・アカデミー」の修了式が2月21日、サテライトキャンパスで行われ、徳田賢二アカデミー長（経済学部教授）から第3期生23人に履修証明書が授与された。

同プログラムは川崎市と本学が官学共同で運営。前身の「KSコミュニティ・ビジネス・アカデミー」から数えて8期目となり、修了生は225人となった。

徳田アカデミー長は「今日で終わりではなく、これからが始まり。このアカデミーに関わっている講師、協力団体、修了生など、多くの〝プラットホーム〟を利用し、今後のキャリアに生かしてほしい。市民のパイオニアとして活躍されることを期待しています」と式辞を述べた。

原田博夫経済学研究科長は「この5カ月間はビジネスを創業、前進させる一つのきっかけとなる。自信を持って、次のステージに向かってチャレンジしてほしい」と修了生を激励した。

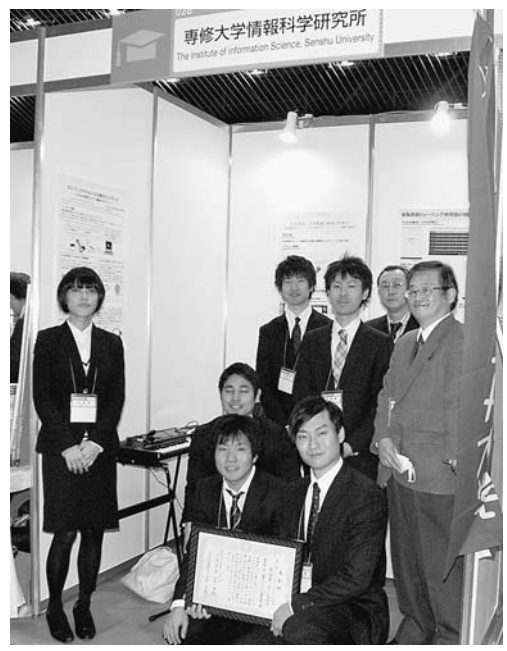
最後に、修了生総代の山田和佳菜さんが「同期の皆さんにも助けていただき、修了することができました。ここで学んだことは仕事にも還元できます。また、プログラムを通じて、川崎市とつながりができたこともうれしいことです」と感想を話した。

▲ 活動を振り返る山田さん

川崎国際環境技術展2014

卒業制作披露

――情報科学研究所が出展――



▲ 力作を出展した学生ら

「川崎国際環境技術展2014」（2月14日、川崎市・とどろきアリーナに情報科学研究所（渥美幸雄所長）が出展し、独自の視点で「エコ」に取り組んだ4年次生の卒業制作2点が披露された。

経営学部森本祥一ゼミの細矢ひかるさんが制作したのは、キーボードを自動演奏するロボットアームと、その演奏音をマイクで拾い視覚化してモニターに描画するシステム。経営学科ながら電子工作が好きという細矢さんが「室内環境を電子アートによって豊かにしたい」とArduino（アルディーノ）マイコンとサーボモーターを使って作り上げた。

ロボットアームが5本の指で5音階の童謡「ちょうちょう」を演奏すると、横のモニターでは音階と音の強弱によって大小5色の円が連動して変化する。武骨な「指」が奏でるアートが来場者の目と耳を楽しませた。

ネットワーク情報学部綿貫理明研究室の浅井修さんと中村龍二さんは、同研究室が開発してきた自転車型トレーニング発電機を賢く進化させた。心拍センサーで運動中の脈拍を計測し、無理なくこげる（発電できる）ようにペダルの負荷を自動調整するフィードバック機構と、発電量を記録し可視化するシステムを完成させた。

プログラミングとAndroid（アンドロイド）アプリの作製を担当した中村さんは「発電量を見える化すれば意欲が増して継続できる。アイデアを生み出すまでが大変でした」。電子工作によるものづくりを担当した浅井さんは筑波大学大学院に進学する。「今回の経験を、筋電位信号を生かした介護ロボットの研究に役立てたい」と新たな課題に意欲をみせた。

また、身の回りの微小なエネルギーを生かして電力を得る環境発電として、田中・綿貫プロジェクト（指導・田中稔教授、綿貫教授、品本直希代表）が開発した二の腕シェイプアップ機器が展示された。振動で電圧を発生する圧電素子を活用した。

図書館企画展 4月1日から

「文字の歴史展―和（やまとし）うるわしプラス―」

図書館春の企画展「文字の歴史展―和（やまとし）うるわしプラス―」が開催される。

日本の文字文化によって生み出されてきた書物を通して、日本語表記の工夫の変遷を楽しんでもらう。展示は「源平合戦絵巻」や「専修学校創立主旨」など約30点。

2011年に開催された図書館特別展「和（やまとし）うるわし」を基に刊行予定のsi Libretto の出版を記念した展示となる。

また会期中、ギャラリートークや専門家を講師に和本づくりを体験するワークショップも開かれる（いずれも2回）。

▽会期＝4月1日（火）～29日（火）12時～17時（土・日は休み）▽会場＝図書館本館（生田キャンパス9号館3階）※「ギャラリートーク」◇4月10日（木）・17日（木）いずれも13時◇講師・斎藤達哉文学部教授※「ワークショップ　和本をつくろう！」◇4月18日（金）・25日（金）◇要申し込み◇参加費無料 問専修大学図書館☎044・911・1274

優秀論文発表会

経済学研究科

大学院経済学研究科修士課程で今年度提出された修士論文、リサーチ・ペーパーのうち、優れた論文を発表する「優秀論文発表会」が3月15日、神田キャンパスで開催された。

原田博夫経済学研究科長をはじめ教員、学生ら20人が出席し、3人の報告を聞いた。

発表者は次の通り（カッコ内は専門科目・指導教授）。

▽河内達哉さん（租税政策・原田博夫）▽中村央さん（経済政策・櫻井宏二郎）▽武田昭紀さん（財政学・町田俊彦）

▲ 研究の成果を発表する武田さん

専修人の新しい本

日本政治の転換 1997―2013

藤本一美著

本書は『戦後政治の争点1945―1970』（2000年刊）と『戦後政治の決算1971―1996』（03年刊＝ともに専大出版局）の続編で、著者の日本の戦後政治に関する論評の完結編。本書では、第二次橋本龍太郎改造内閣から第二次安倍晋三内閣までの11代の内閣の成立と退陣を中心に、日本の政治が大きな構造的転換を迎えた17年間の政治動向を詳細に分析している。

全17章構成で、縦軸に政党の再編成過程を、横軸に政党指導者の動向を設定。「郵政解散」「ねじれ国会」などのキーワードを挙げながら、当時の経済・政治動向や国際情勢を解説するほか、各章の最後には「小渕恵三論」「小沢一郎論」といった指導者の略歴や横顔を紹介するコラムが掲載されている。（専大出版局・本体2000円＋税）

著者（ふじもと・かずみ）＝法学部教授。主な担当は「政治学の基礎」。

今村力三郎訴訟記録 第四十二巻 神兵隊事件 別巻二

専修大今村法律研究室編

本書は本学第5代総長で、人権派弁護士として活躍した今村力三郎が関与した「神兵隊事件」の資料集である。昨年刊行した別巻一の続編で、「神兵隊事件予審決定書」「報告書　神兵隊の告り直しと其精神」「神兵隊決裂の真相とわれらの態度」（神兵隊有志）「神兵隊事件証人申請理由書」（司法省刑事局）の資料群が収録されている。

同研究室では1977年の『金剛事件』（全3巻）刊行以来、『五・一五事件』（全4巻）『血盟団事件』（全7巻）など、『今村力三郎訴訟記録』計41巻を出版。資料収集にも取り組んできた。

「神兵隊事件」の訴訟記録は第八、九巻に収録されており、別巻では所蔵資料を公開。今巻に掲載されている資料はいずれも貴重なもので、歴史的にも重要な意義を持つ。各方面における研究の一助となることが期待される。（専大出版局・本体6600円＋税）

編集代表　今村法律研究室長・松岡啓祐（まつおか・けいすけ）法科大学院教授。主な担当は「商法演習Ⅰ（企業組織）」。